

2019年度公益社団法人日本助産師会 第92回通常総会参加報告

日時：2019年5月23日・24日

会場：栃木県小山市立文化センター・小山市立中央公民館・小山グランドホテル

I、専門部会集会

1、助産所部会

助産所の自然なお産をなくさないために私たちに何が出来るかについてグループワークをしましたが、複数のグループが自分たちが話したい話題を話していてまとまりませんでした。

2、保健指導部会

地区ブロック毎に母子訪問についてのグループワークが行われました。地区によってさまざまな形があることが実感できました。例えば、契約形態に助産師会と行政との契約があること、情報提供の全戸訪問後に要支援とされた対象者にはアウトリーチ型産後ケアとしてケア実施する契約もあること、一件あたりの訪問委託料が1万5千円の地区もあること等。安全管理や母子支援についての篤い思いも共有でき、自分の母子訪問について見直す機会にもなりました。

II、総会

代議員 125名中 125名参加

栃木県知事、小山市市長、栃木県看護協会会長、看護連盟会長の列席を賜りました。



特に市長さんは、名産結城紬の羽織袴でフリップまで用意して栃木愛満載の祝辞を頂きました。



総会は、以前ほどの活発な意見交換等は無く、ぼつぼつと意見が出る程度でした。会員証の電子化を考えている。と言うことが資料にないことであがっていました。専門部会でも話題になっていた「三部会を二部会制にする」という話は話題が出ただけで何も決まっていないとのことでした。収支予算は億という大きな桁に字面を追うのが精一杯でした。報告や審議など滞りなく進み全ての事案が可決されました。

III、選挙

副会長候補の宗祥子さんと南関東地区理事候補の青柳三代子さんが落選されました。

確定ではありませんが、栃木県助産師会会長成田伸様から発表がありました。

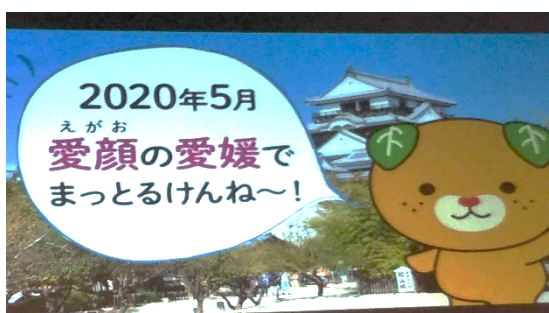
参加受付人数（延べ数） 23日 238、24日 106（344）、25日 278（622）
部会集会参加者数 保健指導部会 92、勤務助産師部会 56、助産所部会 70
（合計参加数 218）

IV、懇親会

小山グランドホテルで開催されました。シャンパンでの乾杯に始まり、美味しい洋食にフルコースでした。



栃木県のスタッフ全員が結城紬の着物を着て接待して下さいました。市の厚意により無料で借りることができたそうです。会場入り口でくじを引いて自分の席が決まる方法でしたので、同じテーブルになった他県の会員と食事をともにしながら親交を深める機会になりました。



来年の総会・学会は、愛媛県（5月28日～30日）で開催されます。みきちゃんちゃん登場の松山市の紹介で参加が楽しみになりました。

第75回日本助産師学会 (講演・シンポジウム)

「複雑化する母子の家族を支える助産師力～たくさんの笑顔のためにできること～」をテーマに講演、集会、ポスターによる研究発表や活動報告、シンポジウム、市民公開講座と充実した学会プログラムでした。

特別講演では医師の海野氏が「周産期医療・保健における医師と助産師の連携」をテーマに、周産期医療体制整備、特に全国どこでも周産期救急医療サービスが機能することの重要性、産科医や助産師の就業上の課題、大規模災害における周産期ケア、無痛分娩の安全性について、医師と助産師の連携の必要性と重要性を話されました。

午後のシンポジウムのテーマは「複雑化する母子と家族への包括的な支援～これからの産後ケアを考える」でした。大ホールには多くの聴衆が集まり、産後ケアへの関心の高さがうかがわれました。4人のシンポジストは、母親や現代社会の子育て力の低下の現状と助産師に求められる期待と役割について話されました。

(ポスターセッション)

7群、34題の発表が活発に行われました。ポスター貼付だけではなくプレゼンテーションの時間が設けられていたため、それぞれの活動の様子がよく理解できました。発表を聞く多くの会員で会場は活気に満ちていました。

北海道助産師会では思春期事業における活動報告行いました。ポスター前には大勢の会員が集まっており、発表後には、「教材や内容をどのように共有しているのか」「講師育成を実施しているのか」等の質問がありました。他県の思春期事業と共通した課題もあり、情報交換の良い機会となりました。

他県の多くの助産師と交流が持て刺激になりとても充実した三日間でした。

